

1年次開講科目

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	開講 セメスター	曜日	講時	頁
人文社会総論	人文社会科学の世界	4	三浦 秀一. 大貫 隆史. 甲田 直美. 永吉 希久子	1	水	5、4	1
人文社会序論	行動科学で解き明かす 社会	2	永吉 希久子. 佐藤 嘉倫	1	水	2	3
人文社会序論	『三国志』研究入門	2	川合 安	2	火	2	4
人文社会序論	留学のすすめ	2	沼崎 一郎	2	火	2	5
人文社会序論	2セメスターからのフラ ンス語	2	阿部 宏	2	火	5	6
人文社会序論	中国伝統思想入門	2	三浦 秀一. 齋藤 智寛	2	水	5	7
人文社会序論	宗教学入門	2	木村 敏明	2	木	2	8
人文社会序論	文化人類学序論	2	川口 幸大	2	金	4	9
英語原書講読入門	英語文献による人文社 会入門	2	尾崎 彰宏. 小泉 政利. 荻原 理. 永井 彰. 金子 義明. 浜田 宏. 木村 邦博. 木村 敏明	2	水	3	10

科目名：人文社会総論／ General Introduction to Humanities and Social Sciences

曜日・講時：前期 水曜日 5 講時. 前期 金曜日 4 講時

セメスター：1, **単位数：**4

担当教員：三浦 秀一. 大貫 隆史. 甲田 直美. 永吉 希久子（教授、准教授）

講義コード：LB00000, **科目ナンバリング：**LHM-OHS201J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

人文社会科学の世界

2. Course Title (授業題目)：

World of Humanities and Social Sciences

World of Humanities and Social Sciences

3. 授業の目的と概要：

この授業は、文学部の必修科目であり、文学部の学生は1年次の第1セメスターに必ず履修する必要があります。毎週水曜第5時限と金曜第4時限に、文学部の26すべての専修をそれぞれに代表する教員が各1回講義を担当します。文学部生は、この全授業を受講し、人文社会科学というものを総合的に理解することが望まれます。課題として合計4つのレポートを作成し提出してもらうことになります。

第1回の授業の際に詳しいオリエンテーションを行いますので、必ず出席してください。受講するうえで不明な点等ありましたら、上に名前を挙げた教員に聞いてください。

4. 学習の到達目標：

文学部の全専修の講義を受講し、関心あるテーマについてレポートを作成すること等を通して、人文社会科学に対する総合的、基礎的な思考力を身につけるとともに、専門を学ぶ上での目的意識や関心を高める。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. オリエンテーション

2. 英語の詩を読んでみよう/インド学仏教史学の世界

3. 東洋史学の世界/日本語教育学の世界

4. 心理学の世界/ことばの普遍性と多様性：英語と日本語の比較から（英語学）

5. ものとなつてものを知ること（倫理学）/大学で学ぶ西洋史

6. 文化人類学の世界/ドイツ文学の世界

7. 哲学の世界/日本美術の世界

8. 宗教学の世界/フランス文学入門

9. 美学・西洋美術史学の世界/日本古典文学の世界

10. 日本思想史の世界/日本史研究の意義と方法

11. 言語学の世界/地域ケア・システムの社会学

12. 中国文学の世界/遺跡から過去の世界を探る（考古学）

13. 中国思想の世界/日本語学の世界

14. 行動科学の世界/現代日本学の世界

15. まとめ

6. 成績評価方法：

レポートと出席とを総合して評価します（比重の目安は、レポート 60%、出席 40%）。

7. 教科書および参考書：

教科書：『人文科学ハンドブック』（東北大学出版会）、『人文社会科学の新世紀（改訂新版）』（東北大学出版会）。その他、各授業で随時紹介します。

8. 授業時間外学習：

講義を受ける中で自分が関心を持ったテーマについて、講義中に紹介された文献などを手がかりに事象や事例について自分で調べ、レポートを書く準備をしてください。

9. その他：なし

各自教科書を購入し、第1回の授業時に必ず持参してください。

また、最後の授業で専修志望予備調査を実施しますので、必ず出席してください。

科目名：人文社会序論／ Introduction to Humanities and Social Sciences

曜日・講時：前期 水曜日 2 講時

セメスター：1, 単位数：2

担当教員：永吉 希久子・佐藤 嘉倫（教授、准教授）

講義コード：LB00001, 科目ナンバリング：LHM-OHS203J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

行動科学で解き明かす社会

2. Course Title (授業題目)：

Behavioral Scientific Approach to Society

3. 授業の目的と概要：

行動科学という学問分野の基本的な考え方を理解するために、さまざまな社会の謎を取り上げ、行動科学の視点からそれらの謎を解明する。

4. 学習の到達目標：

行動科学の基本的な考え方を身に付け、自ら社会の謎を見つけ解明できるようになる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1 行動科学入門
- 2 制度論からみた社会現象の解明 (1)
- 3 合理的選択理論からみた社会現象の解明 (1)
- 4 制度論からみた社会現象の解明 (2)
- 5 合理的選択理論からみた社会現象の解明 (2)
- 6 制度論からみた社会現象の解明 (3)
- 7 合理的選択理論からみた社会現象の解明 (3)
- 8 制度論からみた社会現象の解明 (4)
- 9 合理的選択理論からみた社会現象の解明 (4)
- 10 制度論からみた社会現象の解明 (5)
- 11 合理的選択理論からみた社会現象の解明 (5)
- 12 制度論からみた社会現象の解明 (6)
- 13 合理的選択理論からみた社会現象の解明 (6)
- 14 制度論からみた社会現象の解明 (7)
- 15 合理的選択理論からみた社会現象の解明 (7)

6. 成績評価方法：

出席点 50%、期末レポート 50%

7. 教科書および参考書：

授業中に適宜指定する。

8. 授業時間外学習：

各回の後に授業内容をよく復習し、自分で具体的な社会現象の解明に努めること。

9. その他：なし

オフィスアワー：木曜日午後 12 時～午後 1 時（事前に予約すること）

科目名：人文社会序論／ Introduction to Humanities and Social Sciences

曜日・講時：後期 火曜日 2 講時

セメスター：2, 単位数：2

担当教員：川合 安（教授）

講義コード：LB00002, 科目ナンバリング：LHM-OHS203J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

『三国志』研究入門

2. Course Title (授業題目)：

SANGUOZHI (Reading)

3. 授業の目的と概要：

東洋史の中でも、特に中国前近代史の場合、漢文で書かれた史料（歴史書や文書など）を読むことが必須である。本講義では、単に従来知られている歴史事実を記憶するのではなく、自ら史料を読んで歴史を探究することを体験してもらうことを目的とする。歴史書『三国志』を素材として、それを読む際に必要な基礎知識を学んだ上で、実際に『三国志』の「蜀書」先主（劉備）伝を原文で読んでみる。

4. 学習の到達目標：

自らの手で漢和辞典や参考資料を利用しながら、史料を読んで歴史を探究することを実体験し、その初歩的方法を体得する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1、はじめに：中国史における三国時代
- 2、『三国志』の概要
- 3、『三国志』を読むための基礎知識（1）漢文の語法
- 4、『三国志』を読むための基礎知識（2）漢籍電子文献の使用法
- 5、『三国志』を読むための基礎知識（3）官職や地名の調べ方
- 6、『三国志』「蜀書」を読む：劉備の生い立ち（この回から発表と討議を行う）
- 7、『三国志』「蜀書」を読む：劉備の仕官
- 8、『三国志』「蜀書」を読む：曹操のもとへ
- 9、『三国志』「蜀書」を読む：曹操から袁紹へ
- 10、『三国志』「蜀書」を読む：袁紹から劉表へ
- 11、『三国志』「蜀書」を読む：赤壁の戦い
- 12、『三国志』「蜀書」を読む：蜀（益州）に入る
- 13、『三国志』「蜀書」を読む：蜀（益州）を支配する
- 14、『三国志』「蜀書」を読む：曹操と戦い漢中を獲得（この回まで、発表と討議）
- 15、おわりに：総括、『三国志』研究のこれから

6. 成績評価方法：

小テスト（1～5 回毎回実施）20%、討議への参加状況（6～14 回）30%、発表内容 50%。

7. 教科書および参考書：

教科書：資料を配布する。

参考書：渡邊義浩著・三国志学会監修『三国志研究入門』日外アソシエーツ株式会社、2007 年
柿沼陽平『劉備と諸葛亮』文藝春秋「文春新書」、2018 年
ほかは、授業で紹介する。

8. 授業時間外学習：

配布資料を読み、授業内容を復習して、発表や討議の準備をしていただきたい。

9. その他：なし

科目名：人文社会序論／ Introduction to Humanities and Social Sciences

曜日・講時：後期 火曜日 2 講時

セメスター：2, **単位数：**2

担当教員：沼崎 一郎（教授）

講義コード：LB00003, **科目ナンバリング：**LHM-OHS203J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

留学のすすめ

2. Course Title (授業題目)：

Let's Study Abroad

3. 授業の目的と概要：

留学の魅力を紹介し、留学への意欲を掻き立てるとともに、留学準備の進め方を指導する。セメスターの前半は、世界各地に留学した体験を持つ文学部生の体験談を聞き、質疑応答を通して、留学の実情を知ってもらうことを中心とする。後半は、留学手続きの進め方、特に東北大学の交換留学制度の使い方を説明し、交換留学の志望動機書と学習・研究計画書の書き方を指導する。また、語学学習についても、アドバイスを提供する。

4. 学習の到達目標：

- (1) 留学に興味を持つ。
- (2) 留学手続きの知識を得る。
- (3) 留学計画を立ててみる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 導入 授業法の説明
2. 東北大学の交換留学制度の概要
3. 長期留学者の体験談を聞く (1) イタリア
4. 長期留学者の体験談を聞く (2) フランス
5. 長期留学者の体験談を聞く (3) クロアチア
6. 長期留学者の体験談を聞く (4) 北アメリカ
7. 長期留学者の体験談を聞く (5) ラテンアメリカ
8. 長期留学者の体験談を聞く (6) インドネシア
9. 長期留学者の体験談を聞く (7) マレーシア
10. 長期留学者の体験談を聞く (8) 東アジア
11. 短期留学者の体験談を聞く：SAP
12. 交換留学申請書の書き方 (1) 概要
13. 交換留学申請書の書き方 (2) 志望動機書、学習・研究計画書
14. 交換留学申請書の書き方 (3) 推薦状
15. 総括とディスカッション

なお、長期留学者および短期留学者の体験談のプレゼンテーションの順番および内容は、ゲストの都合により変わることがある。

6. 成績評価方法：

毎回のリアクションペーパー (50%) と、交換留学申請書 (志望動機と学習・研究計画) の作成 (50%) による。出席を重視して成績を評価する。

7. 教科書および参考書：

教科書は使わない。参考書は、適宜教室で指示する。

8. 授業時間外学習：

海外の大学について、ホームページを見るなどして、実際にリサーチする。交換留学申請書の下書を作成する。自分の推薦状を自分で書いてみる。

9. その他：なし

留学に興味のある人はもちろん、留学に興味のない人もぜひ受講して欲しい。実際に留学した経験のある先輩の話聞くことで、留学について具体的なイメージを持つことができるようになるだろう。

科目名：人文社会序論／ Introduction to Humanities and Social Sciences

曜日・講時：後期 火曜日 5講時

セメスター：2, 単位数：2

担当教員：阿部 宏（教授）

講義コード：LB00004, 科目ナンバリング：LHM-OHS203J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

2 セメスターからのフランス語

2. Course Title (授業題目)：

Le français à partir du second semestre

3. 授業の目的と概要：

後期から初級フランス語の勉強をはじめめる1年生を主として対象としますが、前期からフランス語の学習を開始している学生や2年生以上、大学院生も含めて履修可能です。

週1回・半年という限定された枠での授業ですので、フランス語の読む・書く・聞く・話すという総合力よりは、初級文法の学習と読解力の養成を中心にします。

主要な仏和、仏英、仏々辞典の使い方、文法事典の使い方、インターネット等を利用した聞き取り能力養成方法など、教室以外での勉強の仕方についても具体的に説明したいと思います。

4. 学習の到達目標：

- ・フランス語の綴り字の読み方がわかる。
- ・フランス語の基礎的な文法がわかる。
- ・フランス語の平易な文章が読めるようになる。
- ・フランス語の辞典等の有効な使い方がわかるようになる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス
2. 綴り字と発音
3. avoir (have) と être (be)
4. その他の動詞
5. 名詞の性
6. 近接過去と近接未来
7. 形容詞
8. 否定文
9. 比較
10. 複合過去
11. 半過去
12. 仮定文
13. 条件法
14. 接続法
15. まとめと筆記試験

6. 成績評価方法：

平常点 50%. 筆記試験 50%

7. 教科書および参考書：

教科書：教室で指示します。

参考書：佐藤康（2005）『フランス語のしくみ』白水社。

8. 授業時間外学習：

教室外での学習の仕方について、様々アドバイスしますので、適宜関連する学習を行ってください。

9. その他：なし

科目名：人文社会序論／ Introduction to Humanities and Social Sciences

曜日・講時：後期 水曜日 5 講時

セメスター：2, 単位数：2

担当教員：三浦 秀一・齋藤 智寛（教授、准教授）

講義コード：LB00005, 科目ナンバリング：LHM-OHS203J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

中国伝統思想入門

2. Course Title (授業題目)：

Introduction to Chinese traditional thought

3. 授業の目的と概要：

中国思想専修の志望者および広く中国の思想や古典に関心のある学生を対象として、中国における伝統思想の諸相を紹介、解説する。授業は導入とまとめを除いて5回の講義と8回の原典講読から構成され、講義においては、「気」「道」「性」「仁」「理」といった中国思想の基本的な世界観、人間観、実践論に関わる概念を解説、検討する。原典講読では、日本の江戸時代から明治時代にかけての漢学者による漢文や漢文訓読体の文章を読み、漢語・漢文による思惟にじかに触れるとともに、本邦における中国研究の流れにも一定の理解を得る。

4. 学習の到達目標：

中国古典思想の基本概念について初歩的な理解を得る。思想・哲学的内容を持った漢文や漢文訓読体の文章が理解できる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス（齋藤）
2. 講義①「気」（齋藤）
3. 講読1（三浦）
4. 講読2（三浦）
5. 講義②「道」（齋藤）
6. 講読3（三浦）
7. 講読4（三浦）
8. 講義③「性」（三浦）
9. 講読5（齋藤）
10. 講読6（齋藤）
11. 講義④「仁」（三浦）
12. 講読7（齋藤）
13. 講読8（齋藤）
14. 講義⑤「理」（三浦）
15. まとめ（三浦、齋藤）

6. 成績評価方法：

小レポート（60%）、原書講読の予習状況と討論での発言状況（40%）

7. 教科書および参考書：

教科書は用いず、プリントを配布する。そのほか、参考書を随時紹介する。

8. 授業時間外学習：

原書講読の週には、あらかじめテキストを読み、必要に応じて辞書、事典類を引いておく。また、参考書を読んで討論やレポートに備える。

9. その他：なし

科目名：人文社会序論／ Introduction to Humanities and Social Sciences

曜日・講時：後期 木曜日 2 講時

セメスター：2, 単位数：2

担当教員：木村 敏明（教授）

講義コード：LB00006, 科目ナンバリング：LHM-OHS203J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

宗教学入門

2. Course Title (授業題目)：

Introduction to the Religious Studies

3. 授業の目的と概要：

本授業では、宗教学の基本的なものの見方と主要なテーマについて、次のような方法で理解することを目指す。具体的には、次のような内容を含む。

1. 宗教学の基本的なものの見方について、教員が簡単な講義を行ったのちに、討論を行う。
2. 宗教に関する新聞記事から、各自（受講生の数によっては班単位）で興味を持った話題を選び、その社会的、学術的背景や意義について調べて発表をする。
3. 活きた宗教に触れる。幾つかの宗教の信者、あるいは宗教者にそれぞれの宗教について語ってもらい、議論をする。また、地域の宗教施設において民衆の祈願に関するフィールドワークを一回行うことも予定されている。

4. 学習の到達目標：

宗教学の基本的な知識と技法を身につけることができる。

現代の宗教をめぐる諸問題について知ることができる

5. 授業の内容・方法と進度予定：

イントロダクション

2. 準備作業

3. 講義と討論 1. 宗教とは何だろう

4. 講義と討論 2. 教育と宗教

5. 講義と討論 3. 宗教の社会貢献

6. 新聞発表の準備.

7. 新聞発表 1.

8. 新聞発表 2.

9. 新聞発表 3.

10. 新聞発表 4.

11. 活きた宗教に触れる 1. 神仏への願い（神社調査準備）

12. 活きた宗教に触れる 2. 神仏への願い（神社調査を予定）

13. 活きた宗教に触れる 3. 日本におけるイスラーム（仙台マスジド代表による講演を予定）

14. 活きた宗教に触れる 4. 宗教による社会貢献の新展開（臨床宗教師による講演を予定）

15. まとめ

6. 成績評価方法：

授業中の発表、議論への参加状況。

7. 教科書および参考書：

教科書は使用しない。参考書については、授業中に紹介する。

No textbook will be used. References will be introduced in the class.

8. 授業時間外学習：

発表準備。

Preparation for presentation

9. その他：なし

科目名：人文社会序論／ Introduction to Humanities and Social Sciences

曜日・講時：後期 金曜日 4 講時

セメスター：2, **単位数：**2

担当教員：川口 幸大 (准教授)

講義コード：LB00007, **科目ナンバリング：**LHM-OHS203J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

文化人類学序論

2. Course Title (授業題目)：

Introduction to Cultural Anthropology

3. 授業の目的と概要：

文化人類学とは、主としてフィールドワークを通じて異文化について研究し、そこから相対的な視野と思考力を養おうとする学問である。この授業は文化人類学の入門である。文化人類学の基礎的な知識を学び、フィールドワークの体験を通して、この学問の特徴を知ってもらいたい。

授業は大きく分けて、①文化人類学の考え方についてのレクチャーと討論、②フィールドワーク体験、③民族誌の講読、④レポートの作成の4つから成る。主な内容は、講義を聴き、議論し、課題をこなしてゆき、最終的にレポートを作成することである。

4. 学習の到達目標：

文化人類学がいかなる学問で、どのような考え方と方法のもとに研究を進めていくのかについての基礎を学ぶ。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

イントロダクション：授業の概要

1. イントロダクション

2. 文化人類学の考え方① 家族・親族、社会関係、つながり

3. 文化人類学の考え方② 結婚とは？

4. 文化人類学の考え方③ 男／女を考える：性とジェンダー

5. 文化人類学の考え方④ 世界をどう見るか、何を「信じる」か？：宗教

6. 文化人類学の考え方⑤ 経済を人類学から考える：儲かることはよいことか？

7. 文化人類学の考え方⑥ グローバリゼーション＋ローカリゼーション＝？

8. フィールドワークをしてみよう① 非参与観察とインタビュー入門

9. フィールドワークをしてみよう② 公園での非参与観察報告会

10. フィールドワークをしてみよう③ インタビュー報告会

11. 民族誌を読んでみよう①

12. 民族誌を読んでみよう②

13. レポートを構想する

14. レポート構想発表会

15. まとめ：文化人類学を学んで

6. 成績評価方法：

レポート [40%]、出席・討論参加 [20%]、最終レポート [40%]

7. 教科書および参考書：

『ようこそ文化人類学へ』川口幸大著、2017、昭和堂

8. 授業時間外学習：

毎週、その回の授業内容に沿った課題を出す。

9. その他：なし

科目名：英語原書講読入門／ Introduction to Academic Reading in English

曜日・講時：後期 水曜日 3 講時. 後期 金曜日 3 講時

セメスター：2, **単位数：**2

担当教員：尾崎 彰宏, 小泉 政利, 荻原 理, 永井 彰, 金子 義明, 浜田 宏, 木村 邦博, 木村 敏明（教授、准教授）

講義コード：LB00008-15, **科目ナンバリング：**LHM-OHS202J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

英語文献による人文社会入門

2. Course Title (授業題目)：

Introduction to Humanities through Reading English Documents

3. 授業の目的と概要：

本授業では、各授業担当者の専門領域に関わる内容の英語文献を講読します。英語原書文献の読解力は二年次以降の学習・研究にとって重要であるばかりでなく、文学部卒業生に期待される基礎学力として欠かせません。英語原書文献の正確な読解には、語学的読解力と論旨を正確に把握する思考力が必要となります。加えて、トピックの背景知識や、その他の一般的知識も必要です。したがって、英語辞書等の活用に加えて、語学以外の側面についても自ら調べる姿勢が重要となります。本授業では、専門課程で必要となる「読み方」や「調べ方」を身につけてもらうことを特に重視します。各授業の具体的内容は授業紹介を参照してください。また、授業方法、評価方法等の詳細は、授業開講時に各担当者が指示します。

4. 学習の到達目標：

- (1) 英語原書文献の読解力が身につく。
- (2) 文献の批判的講読の仕方が身につく。
- (3) 理論的思考力が身につく。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1) イントロダクション
- 2) 学術英語の読解演習 (1)
- 3) 学術英語の読解演習 (2)
- 4) 学術英語の読解演習 (3)
- 5) 学術英語の読解演習 (4)
- 6) 学術英語の読解演習 (5)
- 7) 学術英語の読解演習 (6)
- 8) 学術英語の読解演習 (7)
- 9) 学術英語の読解演習 (8)
- 10) 学術英語の読解演習 (9)
- 11) 学術英語の読解演習 (10)
- 12) 学術英語の読解演習 (11)
- 13) 学術英語の読解演習 (12)
- 14) 学術英語の読解演習 (13)
- 15) 学術英語の読解演習 (14)

6. 成績評価方法：

各担当教員が授業開始時に指示します。

7. 教科書および参考書：

各担当教員が授業開始時に指示します。

8. 授業時間外学習：

予習段階であらかじめ教材に目をとおしておくこと。

9. その他：なし

1～4 クラスは水曜日 3 校時

5～8 クラスは金曜日 3 校時

様式 10

英語原書講読入門授業紹介

クラス1 水・3 担当 尾崎 彰宏 西洋美術史を通観する基本図書の読解を行います。英文を読みながら、美術作品を見る意義と楽しさを学ぶことができます。 テキスト：.プリントを配布します。
クラス2 水・3 担当 小泉 政利 この授業では「言語の語順と思考の順序」に関する論文を読みます。先行研究の成果を踏まえて仮説をたて、それを実験によって検証する、経験科学（特に言語学、心理学）の研究手法と論文の書き方を学びます。議論の要点を的確にまとめ、他人に説明する練習もします。 テキスト：授業開始時にプリントを配布します。
クラス3 水・3 担当 荻原 理 哲学とは、「<よい>とは、<知る>とは、<ある>とは、<美しい>とはどういうことか」といった問題をじっくり考えていく営みです。テキストには、邦訳が出版されていない、比較的読みやすい哲学の文章を選びます。文法事項をきちんと学びながら、ゆっくり読み進めていきます。 テキスト：プリントを配布します。
クラス4 水・3 担当 永井 彰 アメリカの社会学者タルコット・パーソンズ（1902-1979）の初期の作品を読みます。この論文には、「行為理論」というかれの考え方が、明確に表現されています。行為する人間の視点から、想像力を働かせて英文を読んでいきます。 テキスト：Talcott Parsons, "The place of Ultimate Values in Sociological Theory," <i>The Early Essays/ Talcott Parsons</i>, Chicago: University of Chicago Press, 1991.（プリントを配布します）
クラス5 金・3 担当 浜田 宏 人間の行動は常に合理的でしょうか？それとも非合理的でしょうか？答えは単純ではありません。現在、経済学・心理学・社会学を中心に、一見すると非合理的に見える行動を合理的なメカニズムによって解明する研究が進んでいます。この授業では認知のバイアスやエラーに関する興味深い研究を紹介しつつ、行動科学の基礎を学びます。テキスト：資料をコピーして配布します。
クラス6 金・3 担当 金子 義明 英語は日本語などと同様に自然言語の1つです。英語の研究は、自然言語一般の特性と、英語固有の特性の両面から行われます。英文の英語研究入門書を読みながら、それぞれの側面の研究はどのように行われるのかを具体的に理解するとともに、人間研究全体のなかでどのように位置づけられるのかを見てゆきます。 テキスト：授業開始時にプリントを配布します。
クラス7 金・3 担当 木村 邦博 認知科学を応用した英文解釈法を学んだ後、社会心理学者レオン・フェスティンガーの評伝を読み、宗教・小集団・態度変容・人類史・行動科学研究法など多岐にわたる研究領域で彼が示した「意外な知見」とその意義について考えます。 テキスト：Gazzaniga, M. S. (2006) "Leon Festinger: Lunch with Leon." <i>Perspectives on Psychological Science</i>. 1(1):88-94.（電子ジャーナル利用）
クラス8 金・3 担当 木村 敏明 「神も仏もあるものか」と思わせる悲惨な自然災害を、様々な宗教伝統はどのように説明するのでしょうか。アメリカのジャーナリストが数々の宗教者におこなったインタビューをもとにまとめた著作を丁寧に読みながら、英文の読解法や用語の意味の調べ方を学びます。 テキスト：Gary Stern, <i>Can God Intervene? -How Religion Explains Natural Disasters</i>, 2007,（必要箇所配布）